

# 市民環境大学OB会 ニュースレター



第13号 2017年3月16日 発行

春を告げる河津桜とメジロ

OB会活動の楽しさをともに味わいませんか！ ー市民環境大学OBの皆さんへー

OB会長 飯島利三

立春も過ぎ、暖かい春が待ち遠しいこのごろです。12月22日の最終講義のあと、修了証を手にし、感無量であったかと思えます。一年間、強い意志と努力で頑張りの続けて来られましたことに、こころより敬意とお祝い申し上げます。

環境は市民ひとりひとりが行動していくことで、より良い環境が保たれていくものと思います。市民環境大学という共通の学びの場を経てきた仲間として、本市の環境について意見の交流を通して環境改善に向け、共に歩んでいけたら幸いと思っております。

私たちは微力ですが以下のことを取り組んでおります。

- ・ 毎月第3木曜日の例会(AM10:00～、大学講義月は午後14:00～)
- ・ 環境に関する参考書の購読(約1時間)
- ・ 「水と緑の日野市民ネットワーク」に加入しています。
- ・ 「身近な水環境の全国一斉調査」へ参加しています。
- ・ 市内定点での放射線量、湧水源の水量・水質の調査
- ・ 大気中の窒素酸化物(NOx)測定に協力、その他

会についての確認

- ・ お互いを尊重し、批判はひかえる。
- ・ 個人として参加し、組織を代表していない。
- ・ 反対意見があるとき、意見の統一はしない。
- ・ 緩やかな組織体として活動していく。  
(個人の都合を大切にしながら協力する)
- ・ 会費なし

## 日野用水を考えるイベント“知ろう・歩こう・向島用水”が開催される！

先日潤徳小学校及び向島用水にて、日野用水開削450周年記念講座が盛大に開催されました。以下OB会員の  
上野さだ子さんに当日の様子について投稿して頂きました。

投稿

「知ろう・歩こう向島用水」

上野さだ子

2月11日に「日野用水開削450周年記念事業」の一環として行われたこの会は、向島親水路が平成4年～7年に整備された設計・施行担当者、元水路清流課職員の笹木延吉・中島政和両氏が座学「都市の用水をいかに残すか」・「援農ボランティアの現状と課題」の講師であった。

まず笹木氏が向島用水親水路のテーマ「水辺に生態系を」への熱い思いを語られ、平成17年に「浅川潤徳水辺の楽校」を発足させ、子ども達が浅川や向島用水と親しむ場を作り、潤徳小学校5年生と稲作等を行っている現状と、現在の「浅川の危機」として、用水水利権の変遷や浅川の水量減少について警鐘を鳴らされた。

「援農ボランティアの現状と課題」では、中島氏が昨年市役所を退職されるまで日野市において日野市の水路一般にも目配りをしつつ、平成7年から用水沿いの田の耕作援助を行ってこられたこと。せせらぎ農園代表佐藤三千代氏は、ゴミゼロ運動の一環として、200世帯の生ゴミを回収して農園に埋め込み発酵させて肥料とし野菜や花を栽培、年間50トンの生ゴミの減少と市民のコミュニティ空間を作った体験と問題点を提議。日野市産業振興課澤井誠氏は労働力不足に悩む農家を支援する援農市民の育成について話された。

都市農業をいかにして存続させるか、向島用水の源である浅川の水減少の危機をどう乗り越えるかという問題提議があったが、討論の時間がなく残念であった。

午後は向島用水を歩き、親水路の空石積みで生物が住みやすい岸边・水路を蛇行させ、淵と瀬があるトンボ池・水車を活用し市民や潤徳小学校の子どもたちの精米体験をしている会・用水沿い一面の田んぼに最近相続問題が発生、消滅するという現実・せせらぎ農園の生ゴミ活用の実際、落川用水のポンプアップ取水口・高幡用水下堰の森久保作蔵(自由民権運動に参加し国会議員になる)の水車を買取り、電化し現在も米屋を続ける滝瀬米店の精米所見学などを行った。提議された問題を各自が問いかけながらの現地見学であった。

写真左 (午前)の部  
熱心に聴講する参加者



写真右 (午後)の部  
現地探索「歩こう向島用水」  
風景



## [OB会コラム]

市民環境大学OB会では市民活動の一環として、2011年に発生した東日本大震災により福島原発からの飛散した放射能の量を継続して計測しています。活動を開始して5年が経過し、前半3年の成果をまとめたのち、現在その後の2年間の内容についてまとめが進んでいます。今回、積極的に測定に参加してこられた原田武司さんにその思いについて投稿頂きました。

投稿

### 再び起こる放射能の飛来に備えて

原田 武司

初秋の多摩川で測定を行っていたときのこと、土手をウォーキングしていた主婦の一行が私たちの行動に興味を示し尋ねましたので、「放射能を測定しています」と答えたたん何をいまさらといった表情でそそくさ去っていききました。特に非難されることなくこれが一般的な反応でしょう。福島原発事故以来どのメディアもこぞって報じていた各地の放射能測定値も完全に安全宣言がなされた如く姿を消してしまいました。

私たちの測定している最近の測定値の平均も凡そ0.050マイクロシーベルト/hに収まっていますので、元来自然界に存在するといわれている0.038マイクロシーベルト/hの放射線【原子力安全協会「新版 生活環境放射線(国民線量の算定)」による】との差は僅かです。人類になんら影響ないとの見方が大半です。

しかしこの先延々と浴びる微々たるプラスアルファが本当に地球上の生物に悪影響を与えないと断言できるのでしょうか。そして日本をというより世界中を震撼させた福島原発事故は決して終結したわけではありません。メルトダウンした放射性物質は処理方法すら見つからない状態で放置されたまま、いつ再びわたしたちの街を襲ってくるかわからないのです。その時は国が知らせてくれるとの考えが危険なことは豊洲の移転問題でも実証済みです。行政や企業がいつも適確な情報を知らせてくれるとは限りません。用地選定時にあれほど土壌汚染の危険性が指摘されていたのですから着工以降にもどこかの団体が機関が監視を継続していれば混乱は最小限に防げたのではないのでしょうか。一刻も早く変化を察知するためにも常日頃の観測が欠かせない教訓です。

私たちの今日までの5年間の活動を振り返ってみますと、「広報ひの」平成23年8/1号に初めて市内8か所の放射線量が掲載されたときより遅れること半年、会員が任意で選んだ13か所で始まりました。それまで順調に進んでいた観測も、平成26年の春には測定器が故障してしまい急遽日野市の環境課から拝借するといったアクシデントに見舞われました。幸いなことに市で採用している同型を採用していたこともありデータに齟齬をきたすこともありませんでした。その後、OB会顧問の小倉先生がより高性能で操作性の優れた機種(日本精密機器社製 DC-100)を提供いただき、さらにOB会のメンバーの一人が同型機を貸与してくれことになりました。それまでは数値に大きな変動が生じると機器を疑うことが儘ありましたが、保健センター正面を同時刻、共通の観測場所とすることで二つの機器をチェックし合うことにもなり信憑性が高まりましたし、グループが二つに分かれて測定できることで時間短縮にも繋がりました。その保健センター前では相変わらず観測当日の最高値を計測してグループを悩ませています。また、たまたま仲田小学校正門前で計った際、突出した値が出て驚いたことがあります。その後何回か測定を試みましたが周辺と差異がありませんでした。まだまだ不可解で説明のつかないことが沢山あります。

平成29年4月には私たちOB会の活動拠点となっている「かわせみ館」も場所も名称も変えて再出発することになりますが、私たちの放射能測定はこれからも地道に継続してゆくとともに



放射能測定風景

日野中央公園(写真上) 生活保健センター前(写真右)



### OB会メンバー 活動イベントニュース

- ・平成29年度環境大学開催 本年は新しく移設となる“かわせみハウス”にて5月から開催予定
- ・平成29年2月11日 記念講座“知ろう！歩こう！向島用水”を実施。このイベントは日野用水開削450周年を記念し、昨年から実施されています。今回が第3回で、6月17日に第4回、10月15日に記念シンポジウムを予定しています。

OB会 輪読報告 2月は久しぶりに輪読を行いました。今回でTopics24まで進み、“川と湖を見る・知る・探る”は終了となりました。

陸水学入門 川と湖を見る・知る・探る 編集：日本陸水学会 発行：地人書館

2月 Topics23 水質浄化が進んだ湖で起きた新たな問題 Topics24 湖の富栄養度の指標としての漁獲量